

団長に石田隆信さん、副団長に池浦貴志さんを任命。百八十一人の団員を率いる鞍手町消防団の新リーダーに聞く

消防団。それは住民の生命と財産を守るために組織されたボランティア。
鞍手町では、百八十一人の団員が昼夜を問わず活躍しています。

消防団のはじまり

鞍手町の消防組織は、明治16年に西川村に設置された消防組の組織に始まります。その後、古月村、剣村にも公設

消防として官制の消防組織が編成されました。昭和23年7月には消防法及び消防組織法が公布されたのを契機に消防団も新しく生まれ変

地域の安全を守る 消防団

わかりました。その後、昭和30年に町村合併が行われ、昭和38年4月に鞍手町消防団が発足しました。平成13年3月まで34年間3分団15部で組織されていたものを平成13年4月に分団再編を行い、現在は5分団21班となっています。

火災から
住民の生命と
財産を守る

火災が起きると、昼夜を問わず鳴り出すサイレン。この音を聞くと仕事中でも真夜中でも現場に駆けつけます。それは消防団の誇りと使命があるからにほかなりません。そして「大切な自分たちの

団長を補佐し、地域の安全のために団員一丸となって消防・防災活動に力を尽くしていきたい。



副団長 池浦貴志さん

火を消すことだけが任務ではありません

消防団は火を消すことだけが任務ではありません。大雨や水害などに備え、事前の警戒巡視や避難誘導や行方不明者の捜索など幅広い役割を担っています。そのときこ

町を自分たちで守るんだ」という強い気持ちです。

消防団の火災現場での任務は、放水もしますが、消防署の後方支援、タンク車への水の中継さらには家財道具の搬出や交通整理など多岐にわたり、鎮火後には再燃しないように見回りもします。

火災現場では、とにかく一刻も早く火を消すことが私たち百八十一人の団員の願いです。

伝統をつなぐ 新しい活力

消防団員は現在百八十一人。その中には、平成21年度に入団した団員が7人。それぞれの分団にて諸先輩の指導・助言を受けながら、住民が安心して過ごせるように消防・防災活動をしている。今後この新しい人材に鞍手町消防団の伝統をつなぐ活力になってもらいたいものです。

そ、地域の結束力が必要になり、消防団員は、その先頭になって行動しなければなりません。「自分たちの町は自らで守る」という誇りを胸にこれからも団結して頑張っていきます。

消防団の誇りを胸に団員一丸となって!!



放水、始め！水圧のかかったホースを歯をくいしばって握りしめます。7月5日、浮洲公園で夏季訓練と消防車やポンプの点検を行いました。早朝からの訓練でしたが、ホース延長、放水などの訓練や隊列・行進の練習に団員たちは汗を流していました。

